

特別展

「物流」

ハイオニア

没後20周年・生誕120周年記念

平原直の生涯と思想

Hirahara Sunao



2022.

2.5 **土**

▶▶ 5.8 **日**

10:00~17:00

入館は16:30まで



休館日◆毎週月曜日（3月14日・21日を除く）・毎月第4火曜日・祝日の翌日（4月30日を除く）

入館料◆大人（高校生以上）200円/65歳以上100円/中学生以下無料（常設展示「現代の物流」もご覧になれます）

共催◆流通経済大学 後援◆一般社団法人日本パレット協会 株式会社流通研究社 協力◆日本パレットレンタル株式会社

物流博物館 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 TEL 03-3280-1616 <http://www.lmuse.or.jp/>



平原直 昭和27年(1952)

没後 20 周年・生誕 120 周年記念 特別展

「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想

戦前・戦中・戦後の激動の時代を通じ、一貫して荷役労働における人間の「苦役」からの解放をめざした平原直(ひらはら・すなお:1902~2001)。戦前から輸送現場に身を置き作業の機械化・合理化を提唱、戦後は月刊誌『荷役と機械』を38年間にわたり発行し、執筆や講演・教育活動を通じてパレット、フォークリフトなどの導入・活用をはじめ、荷役の近代化・物流理論の開発普及に尽力しました。戦後の変革期を経て合理化された物流発展の礎を築いた先覚者として知られ、その影響は中国・韓国・台湾にも及んでいます。

平原の思想は革新・合理化を主張しながら公共性を前提とし、視線は常に変革によって失われていく技術や運ぶ姿、歴史にも注がれていました。この展示は、平原が遺した膨大な著作や資料・写真・映像によりその足跡を振り返り、変動期といえる現在に通じる指針を見出すとする試みです。



東京合同運送線の印半纏
昭和戦前期
平原が収集したもの



『機械荷役』創刊号
(のち『荷役と機械』と改題)
昭和24年(1949)4月号

一貫パレチゼーション用
木製平パレットT11型
1,100mm×1,100mm
画像提供
日本パレットレンタル株式会社



チラシ表写真 カメラを構える平原直 昭和20年代半ば(1950)頃
上段:大阪・梅田駅前にて 昭和27年(1952)頃
中段左から:山形県庄内地方の女性による砂礫運搬 昭和20年代後半(1950年代前半)/宮崎県・都城駅での原木貨車積み作業 昭和24年(1949)/紀伊本線(現・熊野市駅)での女性による木材の頭上運搬・貨車積み作業 昭和24年(1949)頃/門司港のテングドリ荷役 昭和30年(1955)頃
下段:日本通運練新宮支店のパレチゼーション作業 昭和27年(1952)頃

関連事業

いずれも事前予約制・先着順に受付いたします

会場:物流博物館2階映像展示室
参加費:いずれも無料(入館料別途要、Zoom参加は入館料不要)
2・3月開催分=2月6日(日)受付開始
4・5月開催分=3月1日(火)受付開始

申込方法

- ①講演会を会場で聴講ご希望の方 ②映画会 ③スライドトーク
→ 電話でお申込みください。Tel:03-3280-1616
- ①講演会のZoom配信をご希望の方
→ メールにて開催日の1週間前までにお申込みください。
e-mail: tokuten22@l(エル)muse.or.jp

お申し込み時に

【参加希望イベント名/日時/お名前/ご住所/電話番号/どこでこのイベントをお知りになったか】をお知らせください。

※お申し込み時にいただいた個人情報は本事業の受付管理のみに使用致します。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により変更・中止となる場合があります。

①講演会

定員:会場10名・Zoom配信あり / いずれも13時30分~15時30分

第1回 3月26日(土)「荷役近代化の父・平原直の生涯と思想」
講師:玉井 幹司(当館主任学芸員) / 共催:東京産業遺産学会

第2回 4月24日(日)「物流における荷役の役割と将来
—変わる生活様式、変わらない物流の本質—」
講師:苦瀬 博仁 先生(東京海洋大学名誉教授・流通経済大学元教授)

第3回 5月5日(木・祝)「小運送合理化に果たした平原直の役割」
講師:河村 徳士 先生(城西大学准教授)

②映画上映会

定員:各回10名

いずれもAM=10時30分~PM=14時00分~

*全プログラムで「荷役近代化への道—現場人はいかに闘ったか—
(1966年/28分/演出・脚本・撮影:平原直)を上映します。

プログラムA

「荷役はかわる—通運のパレット作業—(1958年/50分)
日時:2月13日(日)AM・PM/4月10日(日)AM

プログラムB

「欧米の貨物輸送作業」(1957年/20分)
「トレーラーとのせかえ車」(1958年/25分)
日時:2月27日(日)AM・PM/4月10日(日)PM

プログラムC

「荷役はかわる 第2集」(1960年/41分)
日時:3月13日(日)AM・PM/5月3日(火・祝)AM

プログラムD

「荷役はかわる 第三集 ユニット・ロード システム」(1964年/27分)
「荷役は変わる—第四集 システム化への道—」(1971年/21分)
日時:3月27日(日)AM・PM/4月24日(日)AM/5月3日(火・祝)PM

③担当学芸員による展示解説スライドトーク

定員:各回10名

日時:2月13日(日)/2月27日(日)/3月13日(日)/3月27日(日)/
4月10日(日)/5月3日(火・祝)
いずれも15時30分~16時30分



物流博物館 <http://www.lmuse.or.jp/>

特別展

「物流」

パイオニア

没後20周年・生誕120周年記念

平原直の生涯と思想

Hirahara Sunao



2022.

5.18 (水)

▶▶ 5.31 (火)

9:30~17:00



流通経済大学・物流博物館 共催

新松戸キャンパス1階講堂前ロビースペースにて開催



平原直 昭和27年(1952)

没後 20 周年・生誕 120 周年記念
特別展
「物流」のパイオニア 平原直の生涯と思想

戦前・戦中・戦後の激動の時代を通じ、一貫して荷役労働における人間の「苦役」からの解放をめざした平原直(ひらはら・すなお:1902~2001)。戦前から輸送現場に身を置き作業の機械化・合理化を提唱、戦後は月刊誌『荷役と機械』を38年間にわたり発行し、執筆や講演・教育活動を通じてパレット、フォークリフトなどの導入・活用をはじめ、荷役の近代化・物流理論の開発普及に尽力しました。戦後の変革期を経て合理化された物流発展の礎を築いた先覚者として知られ、その影響は中国・韓国・台湾にも及んでいます。

平原の思想は革新・合理化を主張しながら公共性を前提とし、視線は常に変革によって失われていく技術や運ぶ姿、歴史にも注がれていました。この展示は、平原が遺した膨大な著作や資料・写真・映像によりその足跡を振り返り、変動期といえる現在に通じる指針を見出すとする試みです。



平原が配属された国際通運(株)自動車部 昭和4年(1929)頃



90kgの小麦俵を担ぐ女性 昭和25年(1950)頃



樽の荷役 昭和25年(1950)頃



日本ではフォークリフトの名さえ知られていない時代に、平原が初めて実見した米軍向けコーラのフォークリフト作業 神戸港中央突堤にて 昭和25年(1950)頃



東京合同運送(株)の印半纏 昭和戦前期 平原が収集したもの



『機械荷役』創刊号 (のち『荷役と機械』と改題) 昭和24年(1949)6月



一貫パレチゼーション用 木製パレットT11型 1,100mm×1,100mm 画像提供 日本パレットレンタル株式会社



日本で初めての物流政策を報じる新聞記事 『日本経済新聞』(1964年7月19日朝刊)

この時初めて「物的流通」という言葉がマスコミに登場した。のちにこの言葉が省略されて「物流」という言葉ができたといわれる。

テラシ表写真 カメラを構える平原直 昭和20年代半ば(1950)頃
上段:大阪・梅田駅前にて 昭和27年(1952)頃
中段左から:山形県庄内地方の女性による砂礫運搬 昭和20年代後半(1950年代前半) / 島根県・出雲広瀬駅での原木貨車積み作業 昭和24年(1949) / 紀伊本駅(現・熊野市駅)での女性による木材の頭上運搬・貨車積み作業 昭和24年(1949)頃 / 門司港のテングドリ荷役 昭和30年(1955)頃
下段:日本通運株新宮支店のパレチゼーション作業 昭和27年(1952)頃